

主要事業概要		対象年度	令和 4年度	担当部署	秘書広報課		
		事務事業名	広報事業		事業期間	継続	
事業性質	■ 主要事業	■ 総合戦略		■ 行財政改革			
予算科目	会計 01 一般	款 02 総務費	項 01 総務管理費	目 01 一般管理費			

事業費内訳 (単位: 千円)	R 3決算額	R 4決算額
広報に要する経費		12,729
事業費計		12,729

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

- (1) 広報誌による市民への市政・地域情報の定期配信
「広報かすみがうら」を毎月20日、「広報かすみがうらお知らせ版」を毎月5日に定期発行した。
作成にあたっては、広報誌とウェブを融合させた広報事業の充実にあたり、また記事の編集に係る技術を向上させ親しみやすいデザインで作成することで、親しみやすい広報誌を目指した。また、可読性や視認性、判読性が高くなるようなデザインで、誰にとっても「見やすく」「読みやすい」ユニバーサルデザインフォントを広報誌に取り入れることで、読み手の疲労度や情報取得のしやすさなどを補助した。
・広報誌編集業務委託 4,840千円 / ・ユニバーサルデザインフォント使用 136千円
- (2) 広報デジタルブックの配信
アプリを活用して広報誌等をデジタルブック化し、スマートフォンやタブレット利用者向けに配信した。
また、音声読み上げや多言語化にも対応し利用者の拡大を図った。
・多言語情報配信クラウドサービス 495千円
- (3) 市ホームページ等による市政・地域情報の配信
ホームページの日本語音声読み上げ機能により、音の広報を届け利用者の利便性向上を図った。
・ホームページ運営支援委託 145千円
- (4) 市公式アプリやメールマガジン、SNSを活用した幅広い世代への情報発信によるソーシャルメディア戦略
市公式アプリ、ツイッター、フェイスブック、LINE、メールマガジンを活用し情報発信を行った。市公式また、アプリの機能強化やデザイン変更により、利用者の増加や利便向上を図った。
・広報アプリ改修業務委託 493千円



【地方創生総合戦略の取組内容】

- 市公式キャラクターの積極的な活用に加え、デザインやバリエーションを増やし、プロモーションの訴求効果を図る。
- リニューアルした市公式ホームページ及びアプリを有効活用し、庁内全体における情報発信力の強化を図る。
- 昨年度にシステム構築したシナリオ型のチャットボット（自動回答機能）を随時更新し、利便性向上を図る。
- 広報誌に使用するユニバーサルデザインフォントを拡充し、読みやすさの向上を図る。

【行財政改革の取組内容】

市ホームページにシナリオ型の自動応答サービス（チャットボット）を導入。
また、自動応答サービスの多言語化は必要性を含め検討。

■指標

種類	指標内容	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度
事務事業 成果指標	多言語情報配信クラウドサービス利用した、 広報デジタルブックの配信	回	目標	24	24	24
			実績	24	24	-
総合戦略 成果指標 (KPI)	移住・定住、子育て、シティプロモーションサ イトへのアクセス数前年比	%ア ッ プ	目標	5	5	5
			実績	0	20	-
行財政改革 成果指標	市HP自動応答サービス利用数		目標	-	-	200
			実績	-	663	-

◆評価 (C)

事務事業	妥当性評価	必要性	高	市民に様々な手法を用いて市政情報を伝えることが求められている。			
	有効性評価	事業成果	高	広報誌、HP、SNS、メールマガジンなど、様々な手法を用いて市政情報を伝える必要がある。			
	効率性評価	経費削減	有	映像作成費の削減する余地があったため、令和5年度当初予算では削減している。			
	課題	情報発信ただけで目的を達成するものではなく、受け手に「伝わる」ことが重要であるため、毎年ブラッシュアップが必要と考える。					
	部署内評価	広報誌作成においては、民間企業の持つ専門性・技術力を最大限に活用し、より魅力的で読みやすい広報誌を目指す必要がある。また、SNSの特性を活かし、内容に合った情報発信ツールを活用していくことが重要である。				評価結果	昨年度結果
総合戦略	KPI進捗 (5年ごとの評価)	実施行程進捗 (全体評価)	やや順調	75%	目標到達度	成果有り	75%
	成果と評価	市民目線になることを基本とし、市公式キャラクターを利用したプロモーションの実施。市HPやSNSの活用により積極的に市の魅力を発信。また、公式アプリの構築により新たなユーザーの獲得に繋がった。				評価結果	昨年度結果
行財政改革	進捗概要 (取組内容)	実施行程進捗 (単年度評価)	遅延	55%	目標到達度	達成	100%
	成果と評価 (令和4年度)	内部検証が済んだことから、令和4年8月から運用を開始し、利用件数も予想を大きく上回っている。利用件数も多いことから、頻繁に利用されていると言える。また、会話形式により、質問に対する回答があるため、検索しやすいメリットがある。				評価結果	昨年度結果
総合評価結果	内部評価	本市の情報発信において、広報誌およびホームページが中核となる媒体であるため、市民が手にとりたくなる広報誌、市民がアクセスしたくなるホームページを目指していく必要がある。また、今後も経費削減しつつも時代に合った情報発信に努めていく必要がある。				内部評価結果	昨年度結果
	外部評価					外部評価結果	昨年度結果

◆今後の改善方策や方向性 (A)

事務事業	事業判断	継続性	改善	ブラッシュアップし、市民に伝わる情報発信にする			
	改善方策	民間企業の持つ専門性・技術力を最大限に活用するとともに、職員のスキルを向上させる研修等に積極的に参加する。					
	方向性	情報発信に様々なツールを活用する。また、市民に「伝わる」ことを重視することにも「読みたい」「見たい」と思ってもらえる内容にブラッシュアップしていく。					
総合戦略	次年度取組計画	市の魅力を再確認し、今ある資源の活用と広報活動を連動させ、更なる情報発信の強化が必要。また、動画配信サイトやSNSでの投稿頻度の増を目指す。					
行財政改革	次年度取組計画	シナリオ型のため、キーワードを増やし、利用者にとって便利な機能にしていく。また、多言語での検索履歴の有無に注視し、多言語化の必要性を引き続き検討していく。					
指摘事項	内部評価	自治体DXが注目の課題とされている昨今、新たなツールとの連携をはじめとして、様々な階層の方に等しく情報を届けることのできるよう市民目線でより一層対応する。					
	外部評価						